

8月20日(火)

隣人を愛する

聖書朗読 ローマ人への手紙 13:8~14

律法の全体は、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」という一語をもって全うされるのです。ガラテヤ 5:14

隣人とは誰のことでしょう？ これは難しい問いかけですが、善きサマリア人のたとえが明確に答えています。ハイチ大地震で避難した何百万人もの人たちに援助を送ったということが、隣人が誰であるかについて、もうあれこれ考える必要はないように思えます。隣人は隣りの家に住んでいる必要はなく、地球の反対側に住んでいる人も隣人なのです。

シンプルに考えましょう。私は「自明の理」というものが好きです。でもなかには、シンプルなことを複雑にする人たちがいます。神様に喜んでいただきたいと思うなら、他の何よりも神様を愛し、自分を愛するように隣人を愛します。だから、もし隣人を愛さず、隣人を隣人として扱わないなら、多分、神様を愛してはいないのです。

イエス様は、どのようにして隣人を愛せるようにしていただけますか？ 自分を愛する以上に隣人を愛しないと、神様はおっしゃいません。それはダイヤモンドの法則です。黄金律は、隣人を「自分を愛するように」愛することを求めるものです。イエス様、隣人を愛することを、私のレベルにしてください、ありがとうございます。つまり、自分が人からして欲しいと思うように、人にもすればいいということです。単純明快ですね。

讃美歌 537

祈り 御在天のお父様。私たちを、隣人を愛する者にしてください。自分が人からして欲しいのと同じような優しさと愛情でまわりの人たちと接することができますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

スティーブ・クラーク・ゴード
カリフォルニア州 ブライス

8月21日(水)

本人から直接聞く

聖書朗読 ガラテヤ人への手紙 1:10~20

あなたを恐れる人々は、私を見て喜ぶでしょう。私が、あなたのことばを待ち望んでいるからです。詩篇 119:74

「本人から聞いたことなんだけど……」(直訳すると「それを馬の口から直接取った」という前置きはよくあります。これは、この情報はまた聞きではなく、直接聞いたという独特の言い方です。今日の聖書朗読の中で、パウロは「ただイエス・キリストの啓示によって」福音を受けたと断言していますが、パウロはこの箇所での言い方を使うことができたと思います。パウロは、自分が宣べ伝えた福音は、人によるものではなく、「人間からは受けなかったし、また教えられもしませんでした」と語っています。

今日の聖書朗読の中で、パウロは人の関心を買おうとしているのではなく、神様に喜んでいただくことを強調しています。主に喜んでいただくことを知る最善の方法は、「本人から聞く」こと、つまり、みことばを自分自身で読み、学ぶことであり、他人の解釈や説明に頼ることはありません。他人の解釈は、ときには歪曲したり、意味が希薄になったりすることがあります。

使徒の働き 17章で、ルカは、ベレヤの人々の話の中で素晴らしい例をあげています。ベレヤの人たちは、その高潔な気質を称賛されましたが、それは「はたしてそのとおりかどうかと毎日聖書を調べた。」(11節)からです。ベレヤの人たちは、この人生を変えるメッセージは非常に重要なので、パウロのことばをそのまま受け入れるべきだと悟りました。

神様が言われたことについて、また聞きの知識で満足しないようにしましょう。多くの情報源が私たちの注目を集めようとしています。みことばを熱心に求めて、神様ご自身から直接、情報をいただくようにしましょう。

讃美歌 374

祈り 主よ。みことばを学び、深く考えるとき、あなたの真実を私たちに明らかにしてください。

ことばが人となったキリストのお名前によって。アーメン。

ジャン・ノックス
テキサス州 グランベリー

8月22日(木)

主は生きている！

聖書朗読 ガラテヤ人への手紙 2:25~21

もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。 ガラテヤ 2:20

電話が鳴りました。受話器の向こうの声がありました。「へんな質問なんだけど、数年前に野生の花の種を買ったのね。それって、まだ使えるかな？ まだ生きてるかな？」と。私は、発芽率はやや低いかもしれないけれど、種はまだ生きていることを説明しました。実際、ピラミッドで発見された種子が、4000年後に生存可能な植物になりました。

ガラテヤ2章20節を呼んだとき、イエス様の愛についての記述は、ギリシャ語では過去形なのか、現在形になのかと思いました。知らべてみると、イエス様は「私を愛していて(現在進行形)、私のためにご自身をお捨てになっている(現在進行形)」という記述を見つけました。イエス様の愛は、過去の歴史的な出来事ではなく、今現在のものなのです。

まさに今、イエス様は私を愛してくださり、私のためにご自身をお捨てになったださっているのです。毎日、イエス様とつながるたびに、イエス様のいのちが、私が成長するために必要なものすべてを常に与えてくださいます。私は、イエス様が私のために十字架の上でくださったことを、ただ心に留めているだけではありません。私は、毎日、イエス様とイエス様のなさり方を体験し、イエス様に倣う者に造り変えられているのです。種に命を与えることのできるお方が、ご自身のいのちを私の中お与えくださいます。イエス様のいのちを体験することこそ、もっとも大いなる栄誉なのです。

讃美歌 271

祈り 主よ。私の願いは、あなたに留まり、あなたのいのちを十二分に体験することです。

イエス様のお名前によって。アーメン。

バーギー・ニーマン
コロラド州 ニューキャッスル

8月23日(金)

重荷を負う

聖書朗読 ガラテヤ 6:1~10

互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい。

ガラテヤ 6:2

私がまだ駆け出しの牧師だったころ、教会の皆と共に山々へ出向くことが楽しみの一つでした。今でもふとその時のことを思い出します。当時はコロラドの教会で働いていたので、サマーキャンプとなると同州のバイク国有林やロスト・クリークワイルダーネスに遊びに行ったものです。

それらの旅は大げがもなく大変祝福されたものでした。しかし、それは私たちが大げがを防ぐために常に全員が気をつけ準備を怠らなかつたからです。軽い怪我をした仲間の荷物は他のメンバーが持つことになっていましたし、重い荷物は仲間内で分けて運ぶことにしました。疲れたり、まめができてしまった人の荷物は別の人が持っていたことも覚えています。

今日の聖書箇所は状況こそ違えど、同じように人の荷を負うことの必要性について書いてあります。かつての旅を思い出すたびに私はガラテヤ人への手紙10節に思いを馳せます。「ですから、私たちは、機会のあるたびに、すべての人に対して、特に信仰の家族の人たちに善を行いましょう。」

私たちは互いの助けが必要です。

助けが必要な時は、いつでも願いなさい。

助けられる人が助けることを拒否することは不可能です。 ウォルター・スコット

讃美歌 21 540

祈り 天の父なるお父様、私たちが互いの重荷を分け合えることを感謝します。ひとり子イエス様が私たちの重荷を背負ってくださったことに感謝します。信じます主キリストの御名によって祈ります。アーメン。

クリス・フリッゼル
テキサス州 グランバリー

8月24日(土)

隠された宝

聖書箇所 コロサイ 2:1~7

このキリストのうちに、知恵と知識との宝のすべて隠されているのです。

コロサイ 2:3

あらゆる手段では人は、自らの財産を守ろうとします。銀行に預けたり家の安全な場所に隠したり、金庫に入れてそれを庭に埋める人までいます。しかし、私の日はキッチンマットの下にへそくりを隠していました。どう考えても隠し場としては不適切でしょう。だからこそ良いのです。まさか泥棒もそんなところにお金があるとは思わないでしょう。

「パウロは神様が知恵と知識との宝すべてをイエス様の内に隠された」と言っています。とんでもないものを隠されたものです。このイエス様の内に隠されたという言葉の意味は内なるキリストから知恵や知識が出てこそ価値を持つという意味ではないかと私は考えています。イエス様を通して私たちは神様の正しい姿を知りこの地上でどのように生きることが賢く、価値あるものであるかを理解し、天の国での永遠の命への希望を持てるのです。それらは、すばらしい宝物です。

母がへそくりをキッチンマットの下に隠しておいたのは取り出しやすいからだだと思います。あなたは神様の知恵と知識をどこにおいていますか。常に心に、口にする言葉にイエス様の臨在を覚えていますか。そうすることが大事なのです。

讃美歌 278

祈り 私たちに豊かな信仰を与えて下さりありがとうございます。そのためにイエス様を与えて下さりありがとうございます。イエス様の内にある宝を私たちが見出すことができますように。

主イエス様の御名によってお祈りします。アーメン。

ジョン・H・ウィリアムス
テキサス州 アビリン

8月25日(日)

勇気はどこから

聖書朗読 Iテサロニケ 15:12~28

あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをしてください。

Iテサロニケ 5:24

どんな時に真の勇気が湧くのでしょうか。圧倒的な装備に身を包んだ強敵と何の記録もないちっぽけな挑戦者の対決でしょうか。バスケットボールの試合にもこのような戦いがありました。弱小チームであるバトラーと強豪チームであるデュークの試合です。あまりにも実力に差がありすぎたため、この2チームは、「ダビデとゴリアテ」などと呼ばれました。多くの人がこの痩せガエル、ダビデとも評すべき弱小チームを応援して、ついにはバトラーは勝利したのです。

しかし、かつて本物のダビデとゴリアテが対面したとき、誰一人としてダビデが自らの勝利を疑っていないということを感じていなかったでしょう。あまりにも若く、小さく、経験も不足しており、装備も貧弱なダビデに勝ち目など無いと考えていました。しかし、ただ一人、ダビデだけが肉体の強さなどのデータよりも神様の力を信じていました。

「獅子や、熊の爪から私を救い出してくださった主は、あのペリシテ人の手からも私を救い出してください」(Iサムエル 17:37)。ダビデはこのようにサウルに自信のわけを説明しました。ダビデはただ楽観主義だったわけではありません。神様の性格と性質を信じていたのです。羊飼いの少年は数々の危険を乗り越えた経験から自らの羊飼いのことを学んでいました。

ダビデの偉大さとはそのひたむきな信仰です。彼の勇気は信仰から生じたのです。私たちも同じような信仰を持つことが可能です。

讃美歌 267

祈り 天にいます父よ。私たちは、絶対に適わないと委縮してしまうような難敵と対面することがあります。そんなときでもあなたを思い出し、あなたの強大な力と計画とを覚えて勇気をだせますように。

イエス様の御名によりて。アーメン。

スティーブン・スチュアート
ニューメキシコ州 アルバカーキ